

旧町名標識 一覧表（あいうえお順）

- (1) ゴシック体は江戸時代末期の町名、明朝体は明治時代から昭和時代初期にかけての町名です。
- (2) 旧町名や町(「まち」・「ちょう」)の読み方は、平成29年現在使われている町会名に基づいています。時代や資料により、異なる読み方もありますので、ご了承ください。
- (3) 旧町名の読み方で、「まち」を省略して読むことが多いものには、読み方に()を付けています。
例: 上土町 あげつち(まち)

旧町名	設置場所	目印	説明
逢初町 あいそめちょう	松本市庄内2丁目3485-5(庄内2丁目1-41)	第二地区公民館から南へ、逢初橋を渡った所にある。	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の外に新たに町々が形成されたが、逢初町もその一つである。この町名は、千鹿頭山から流れ出す逢初川が通っており、また明治の末から藍染めも行われていたことに由来するという。
葵の馬場 あおいのばば	松本市丸の内15番3号	池上百竹亭の前	城内三の丸にあった葵馬場に因む町名。この地で騎馬の修練が行われていたことを物語っている。戸田氏の藩祖康長が、徳川家康から許された葵の紋章に因み、この馬場の土堤に葵を植えたことがその名の由来という。
梶町 あがたまち	松本市梶3丁目1番1号	あがたの森公園前の歩道	この地には梶の宮や梶塚の地名、古代の遺跡があるので、筑摩の梶があったところと推定されている。大正九年旧制松本高等学校が現在のあがたの森の地に創設された際、町が造られた。町名は筑摩の梶に因むものである。
上土町 あげつち(まち)	松本市大手4丁目8番14号	上土通り、磯部整骨院の横、つたや呉服店の前	松本城の東側東門前の馬出し廓の堀の土を上げたところから町名となる。惣堀の外の武家屋敷地。この上土にかつては牢屋もあったと記録されている。
旭町 あさひまち	松本市旭2丁目4番4号	旭町小学校西門前	明治二十二年、和泉町より北に第二線路が開通し、同四十一年にはこの通りの中原地籍東側に、松本五十連隊の兵舎が置かれた。町名は軍旗の旭日旗と東方の旭日とををかけて旭町とした。
蟻ヶ崎 ありがさき	松本市蟻ヶ崎1丁目4番44号	こまくさ通りの「蟻ヶ崎」信号から北に進むと、道路左側の三角地にある。	蟻崎の名は中世から見られ、阿礼崎とも表された。「阿礼」は村を表す古語で、「アリ」「アレ」は神が降臨することを意味するという。地名の由来は、盆地を見渡す突端の村という意味から付けられたと考えられる。近世には蟻ヶ崎村であった。
飯田町 いいだまち	松本市中央2丁目9番8号 藤森病院前	藤森病院の西側通り沿い。	飯田町は松本城下枝町十町の一つで中町に属していた。慶長十八年(一六一三年)に城主小笠原秀政が飯田より入部した際に、飯田から来た侍衆や奉公人・職人を置いたのが由来であるという。享保年間には家数七十軒あり、主に鋳物師・紺屋・石屋・鍋屋などの職人が住んでいた。

井川(城) いがわ(じょう)	松本市井川城3丁目4060-8	セブンイレブン松本井川城店から西へ進むと、左側に見える。	井は釜など同様に湧水のあるところの地名である。建武年間に信濃守護小笠原貞宗がこの地に構えた館を井川館といたので、地名の起源はそれ以前である。戦国時代まではこの地が信濃國の政治の中心であったが、その後里山辺の林に館が移された。江戸時代には庄内組小島村とよばれた。
和泉町 いずみまち	松本市旭1丁目1番20号 住宅塀前	国道143号「城東二丁目」信号から北に行き、左側に「遠山印章」が見えたら、その北側にある。	町人町・東町の枝町の一町名。この町の成り立ちは古く、天正十三年(一五八五)頃といわれ、由来はこの辺りから清水が湧き出たからとも、倉品和泉という人物が住んでいたからともいわれる。東町の北に続く善光寺道に沿い、家数百十一軒、小路は南から東側に長称寺小路、観音小路、前裁小路、西側には袋町から東町に出る小路があった。
伊勢町 いせまち	松本市中央1丁目18番1号	Mウイング前、バス停の横	町人町・本町の枝町の一町名。城下町西口の出入り口にあたり、西端には十王堂が置かれていた。町の規模は、本町から出口まで東西三町五十六間、道幅三間半、家数一九五軒で、東から上丁、中丁、下丁となっていた。
出川町 いでがわまち	松本市出川町1740番地1	出川公民館前	当地域には弥生時代から中世に至る遺跡があり、その歴史は古い。中世までは高原瀬と言われていたが、地下水が豊かな湧泉地帯であり、小川が無数に流れ出ているので、出河川(でがわ)、後に出川(いでがわ)と呼ばれるようになったと伝えられる。町名は出河川里～出河川村～出川町～出川町村～出川町などと変遷した。
今町 いままち	松本市大手1丁目433	女鳥羽川沿い、セブンイレブン今町店の前	今町は、江戸時代中頃に成立したといわれ、白板村に属していた。城下町割の外であったが、松本城下と越後の糸魚川を結ぶ千国道(街道)の起点に近く、その名は「村落なれども現今は町」を意味するという。
埋橋 うずはし	松本市埋橋2丁目11番4号	埋橋公民館の前	古代の埴(土器)が埋蔵されていたことから、埴が転訛して埋橋になったという。地名の起りは古く中世にも埋橋郷があり、また天正検地帳には埋橋村が記載されている。町名はこの埋橋村を継承したものである。
梅ヶ枝町 うめがえちょう	松本市深志3丁目1023-2	相澤病院から深志神社に抜ける道で、西側を見ていくとある。	長沢町から大正八年に開設された長野県工業試験場正門までの道筋にそう町名である。この辺りは菅原道真(菅公)を祭る深志神社の宮本であるので、梅を愛でた道真に因んで梅ヶ枝町と命名した。
裏小路 うらこうじ	松本市中央2丁目472-2 先	商工会議所駐車場の北側、女鳥羽川沿いにある。	東町大橋から大手橋(千歳橋)までの女鳥羽川左岸を、中町の裏にあたることから裏小路と呼んだ。天保三年(一八三二)犀川通船の通航により日本海の高産物が運ばれるようになると、道幅一間の通り沿いは魚屋などが軒を並べにぎわった。
餌差町 えさしまち	松本市大手5丁目3番9号	清水橋の西側にある。放光庵(餌差町の十王堂)の近く	餌差町は城下の東の出入り口に当り、町の東端には木戸と十王堂が置かれ、町番が木戸を守っていた。百姓や町人はこの木戸からの乗馬は認められなかった。町名はここに藩主の鷹の餌(小鳥)を差し出す役目の「餌差」を置いたことに由来するという。

御徒士町 おかちまち	松本市開智2丁目9番12号 住宅前	高橋家住宅(松本市重要文化財)から東の方に歩いていくと、右手の花壇の中に見える。	武士は職分により住居地が定められていた。お城北にあたるこの東西の通りの両側には徒士屋敷が軒を連ねていた。
折井町 おりいちょう	松本市大手1丁目393-21	再開発住宅敷地内	明治以後の市勢の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。折井町もそのひとつである。その名の由来は、この町が、白板町にあった折井氏の所有地に新たにできたことによる。
開智町 かいちまち	松本市中央1丁目114 先(中央1丁目18番1号)	Mウイング東側歩道	明治五年の学制発布をうけて翌同六年女鳥羽川沿いにあり、廃仏毀釈で廃寺となっていた戸田家の菩提寺全久院の建物を利用して旧開智学校が開校された。明治九年には、この地に文明開化の象徴である擬洋風建築の旧開智学校が建築された。その西側にあった数戸の商家を旧開智学校にちなみ、開智町と称した。
鍛冶町 かじまち	松本市大手4丁目5番6号 前	山家小路「田楽木曾屋」の斜向い(南西側)にある。	町人町・東町の南端から山家組へ通じる枝町名。「信府統記」には「家数二十七軒、町幅三間。昔八紺屋町トモ云ヒ、中比鍛冶町ト云ヒ、今八山家小路と云フ」とある。享保年代ころは山家小路と呼ばれていたが、江戸時代後期には鍛冶町の名称が定着した。
片端町 かたは(まち)	松本市丸の内7番 深志橋の南東側たもと	「深志橋」交差点から南を見ると、右手(堀側)に見える。	松本城惣堀の外の武家屋敷地帯で、東側のみ屋敷割されたことから町の名がついた。「信府統記」によれば、「……片端南北二百二拾四間余……」と家並が続いていた。
金山町 かなやまちょう	松本市県1丁目1498-4	カタクラモール東側道路の歩道	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たな町々が形成されたが、金山町もその一つである。この町名は、火の神様で鍛冶職等が崇敬する金山様という社があることによってこの名がつけられた。
鎌田 かまだ	松本市鎌田1丁目13番33号	国道19号「鎌田南」信号を東へ進むと、右手に見える。武田内科医院の前。	「かま」とは水の湧き出る釜状になった地形をいい、鎌田は湧水地帯の水田の意味である。かつてこの地には権現の池という大きな沼があり、龍神が棲んでいて、人寄せの時に椀膳を貸してくれるように祈れば借りられたという伝承があった。この地は中世は井川城の城下町であり、また江戸時代は庄内組鎌田村であった。
上馬出し かみうまだし	松本市城東2丁目157-5 先(2丁目6番21号前)	信号「深志橋」から北に行き、中澤医院の東側のT字路を右に曲がり、歩いていくと左側にある。	馬出しは、城門の前に人馬の出入りを敵に知られないように築いた土手の事である。上馬出しは、北門馬出し郭から和泉町へ抜ける通りをいう。尚江戸が上手になるので、城下町の北が上馬出しになり、東門馬出しから東町に抜ける通りが、下馬出しである。
上下町 かみしたまち	松本市旭1丁目804 先(旭1-8-6)	「下町」の碑のある通りの一本北側の通りにある。	城外武家屋敷の一町名。「信府統記」には「裏新町東西九拾九間余、家数北ヶ輪九軒、南ヶ輪拾二軒」とある。享保一〇年、同一六年の城下町絵図には裏新町が新町と書かれており、さらに幕末期には上下町と名前を変えている

上横田町 かみよこたまち	松本市女鳥羽1 丁目9番8号 長称寺入口	葎町信号交差点から北に行くと、道路右側に見えてくる。(長称寺の入口付近)	町人町・東町の枝町の一町名。東町・和泉町の裏(東)に位置する町で北を上横田町、南を下横田町といった。町割りが行われた際、女鳥羽川の東岸、横田村から人家を移したので、この町名がついたといわれる。
神田 かんだ	松本市神田1- 37-9	神田公民館入口	神田の地名は室町時代にさかのぼる。神田村は戦国期から江戸時代を経て、明治七年中山村の一部になるまで続き、その後昭和十八年に松本市に分離合併した。地名の由来は千鹿頭山の頂上にある千鹿頭神社の神の田によるという説が有力である。
観音小路 かんのんこうじ	松本市城東2丁 目8番12号	セブンイレブン 和泉店から1ブ ロック南に行っ た交差点の駐 車場カド	和泉町から分岐する二つの小路の一つ。和泉町より大安楽寺の観音堂に通じる道であったので、この名がつけられた。大安楽寺は真言宗の寺で、観音霊場信濃百番・三十三番札所めぐりの第一番札所となっており、歴代城主の祈願所であった。
北馬場町 きたばば	松本市丸の内9 番 北馬場柳の井 戸の前	北馬場の井戸 には、大きなヤ ナギが立って いるので、それ を目印にすると 良い。	松本城北側惣堀外騎馬修練が行われていた所から町名になる。信府統記には「北馬場東西百五拾九間余、北側家数拾二軒南側堀端ナリ」とあり、東入口に番所があったと記されている。
源地 げんち	松本市中央3丁 目1290-1	瑞松寺の北東 側道路カド	ここは中世のころ、信濃守護小笠原氏の家臣で、号を玄智といった河辺縫殿助の屋敷があった。その屋敷跡に玄智の号に因む「玄智の井戸」があり、「当国第一の名水」として知られていた。歴代の城主は「殊勝の水」として制札を掲げてこれを保護し、藩主の用をはじめ、城下町の飲み水や、酒造用水にも使われていたので、水源という意味も加味して源地とした。
小池町 こいけまち	松本市中央2丁 目8番17号 付 近	中町の蔵シッ ク館から駅前 通りに歩いてい くと、右側にあ る。	小池町は松本城下の枝町十町の一つで中町に属していた。慶長十八年(一六一三年)、城主小笠原秀政が飯田より入部の際に南半分を奉公人衆の屋敷にした。その中に小池甚之丞という軍学兵法の達人がいたので、その名を取ったという説と、この辺りに小さな池があったことに由来するとの説がある。
口張町 こうばりちょう	松本市北深志3 丁目6番4号 付近	コージックロッ シング(アパー ト)向かい側。 位置としては同 心町の碑の北 西に当たる。	武家屋敷の最北端に位置する。「信府統記」に「同心町北ノかうばり町東西七拾二間余家数南ヶ輪七軒北ヶ輪拾一軒」とある。「松本市史」では紅梅町とあることから、当初紅梅の木があつて起源となり、後に今の名に訛ったのではないかと述べられている。
国府町 こくぶちょう	松本市中央2丁 目1番1号	駅前通り「国府 町」信号の北東 側カド	明治三十五年篠ノ井線が開通し、松本駅が松本町の玄関になると、それに相応しい町名として、かつてこの地が信濃国の府中として栄えていたように、松本町の繁栄を願って国府町と命名された。
五條町 ごじょうまち	松本市本庄1丁 目907	ホテルブエナビ スタの北にある 松本駅前記念 公園の南西カ ド	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、五條町もその一つである。この町名は、西五町に交差し中条に通ずる町ということで、この名がつけられた。

蚕玉町 こだまちょう	松本市中央4丁目1240-1	やまびこ道路の「サイゼリヤ」前、太玉乃神(おたまのかみ)祠の横	大正三年、この地に大日本一代交配蚕種普及団が設立され、その周辺に町が形成された。町名も蚕に因んで命名された。また近くには往古から泉があり、思兼乃神と太玉乃神が祀られていたが、元禄年間に薄川の氾濫で流失した。その後太玉乃神の祠が再興されて、池を「お玉の池」と呼ぶようになった。
駒町 こまちょう	松本市城西1丁目181-17	大手一丁目信号から新橋に向かう一方通行路を進み、右側を見ていくと、お堂の前にある。	この地域は、近世には宮淵村、蟻ヶ崎村に属していた。町名の由来は、水野家の家臣鈴木伊織が「貞享義民騒動」の指導者多田加助の助命の特使として江戸より早馬でこの辺まで来たが、精つき駒の足が折れ、処刑の時刻に間に合わなかった。この駒を祀ったことによると言われている。
小柳町 こやなぎまち	松本市大手3丁目4番18号【一時撤去中】	(元の場所は、レストラン鯛萬のカドの北西側にあった。) 【一時撤去中】	城内武家屋敷の一町名。大名町の東側、地蔵清水町と大柳町の南に位置した。二〇〇石から三〇〇石前後の俸禄の武士の屋敷があり、北の大柳町に対して小柳町と呼ばれた。「信府統記」には「小柳町、南北九拾間余、家数西ヶ輪四軒、東ヶ輪五軒」とある。
幸町 さいわいちょう	松本市埋橋1丁目944-1	石井味噌の駐車場入口	旧源池小学校から中林橋までの南北に長い町で、大正十一年長沢町から分離して新しくできた町である。町名は、この地の開発に貢献した石井祐助氏が父親幸正氏に因んでその一字をとり、また地域の人々の末長い「しあわせ」を願う意味も込めて幸町と名付けられた。
栄町 さかえちょう	松本市本庄2丁目771-4 相澤病院駐車場前	相澤病院駐車場前、開道記念碑の横。	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町とよばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが栄町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。
作左衛門小路 さくざえもんこうじ	松本市城東1丁目4番7号	城東二丁目信号 魚万の前	東町から分岐する六つの小路の一つ。名主萩原作左衛門がこの小路を開通させたことに因み、この名がつけられた。
桜町 さくらまち	松本市女鳥羽1丁目5番24号	桜町公民館前	女鳥羽川右岸には、明治末ころから堤防際に民家が建ち始め、この頃から清水橋北の堤上に桜が植えられたので、地域の人々は桜町と呼ぶようになった。その後市勢の発展にともない、町の地域も広がったので、町会では、桜町を正式町名として大正五年十二月に市役所に願い出て、正式な町名になった。
笹部 ささべ	松本市笹部1丁目817-1	バス停「笹部」東側、歩道植え込み内	この地域は、江戸時代から明治のはじめまで、笹部新田村または笹部村であった。地名の起こりは古代の豪族の姓(かばね) - 称号 - の一つ雀部(ささきべ)で、笹部と変化したとも伝えられる。
沢村 さわむら	松本市沢村1丁目1721-1(沢村1丁目4番13号付近)	フレマリール(アパート)駐車場前	岡田矢諸の諸窪に古くからある普門院という古刹の大門脇を流れる川を大門沢川と呼び、その下には大門池もあった。大門沢川に沿った地域を大門沢川にちなみ、沢村と称した。

三才 さんざい	松本市筑摩3丁目3313	重要文化財若宮八幡社の入口	町名の由来は、古代、優れた三人の才能のある人物が諸災害を治めたことによるとの説、筑摩郡に国府があったことから、風の祝(台風を治める神職)がこの地において、三年ずつで交替したこと、三歳ずつによるとの説、さらに御射(みさ)の神事の地によるとの説がある。三才には天道、地道、人道、天地間の宇宙萬物の意がある。
塩屋小路 しおやこうじ	松本市城東1丁目3番11号	城東二丁目信号を南に行き、最初の四つ角を左に曲がって進むと、レオパレス21東町の前にある。	東町から分岐する六つの小路の一つで、恵光院につきあたる。町名は塩屋孫兵衛という豪商が居住していたことに由来する。この小路にあった井戸は底が海底へ通じ、昔より塩を供給する老翁が出現したとの伝説がある。
地蔵清水 じぞうしみず	松本市丸の内4番 松本市役所本庁舎前 市道1064号線沿い	松本市役所本庁舎前、外堀側の歩道にあるバス停の南の植込み。	この地は中世のころは市辻と呼ばれ、市が立ち賑わっていた。いつのころか清水の湧く辺りから石の地蔵尊が出土したので、地蔵清水と呼ばれるようになった。地蔵尊は生安寺にまつられている。
下下町 したしたまち	松本市旭1丁目7番11号北側道路沿い	セブンイレブン和泉店から北に行き、最初のカドを左に曲がると、なまこ壁の前にある。	城外武家屋敷の一町名。足軽町の天白町、中ノ町、東ノ町の南端を東西に結ぶ下町に並行して、摂取院から東へ新しく足軽町が造られ、下下町とか表新町と呼ばれるようになった。「信府統記」には「東西八拾九間余、家数北ヶ輪拾二軒、南ヶ輪拾四軒」とある。江戸時代末期には下下町の呼び名が定着した。
清水町 しみず(まち)	松本市清水1丁目1456-2	清水西公民館隣、槻井泉神社入口	槻井泉神社の湧水は、古来より清冽な清水として都にも知られ、和歌にも詠まれた。町名は、この名水清水に因むもので、江戸時代の末頃には、清水村ができていた。ここは松本市の史跡であり、境内の大櫓は、同天然記念物に指定されている。
下馬出町 しもうまだし	松本市大手4丁目11番7号	松本城の南側の通りを東に行くと、佐廻春(さのはる、料理屋)の向いにある。	東門馬出し郭から東町へ抜ける通りで、北門馬出し郭からの通りが上馬出しと呼ばれたのに対して下馬出しと呼ばれた。
下横田町 しもよこたまち	松本市城東1丁目3番27号の南側の道路	正行寺の参道を西に出て、右側にある。	歴代城主の発願により、古くより寺町としての様相を呈していたが、一七三〇年代、既に現町名で二丁八間二五一軒の人家を構え、職工人の町として栄えた。主に湧水を利用した紙漉足袋の製造など多く、維新後は県内初めて料芸街として官許され、伝統は現在に受け継がれている。
生安寺小路 しょうあんじこうじ	松本市中央2丁目5番30号 稻荷神社前	高砂通り 松柏パークの隣の稲荷神社前	町人町・本町から東へ入る小路名。かつて生安寺(現在は蟻ヶ崎に移転)を見通すことができる小路であったため、この名がついたといわれる。また、三月・五月には節供のひな人形を売る店が軒を連ねたので、ひな小路とも呼ばれた。
松栄町 しょうえいちょう	松本市大手2丁目311-34	「大手一丁目」信号交差点から東に行くと、南側歩道にある。松本城西郵便局の向かい側。	明治以後の市勢の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。松栄町もそのひとつである。松本の地名に因み常盤の松の緑にあやかって栄える願いが込められている。

正行寺小路 しょうぎょうじこうじ	松本市城東1丁目1351-5先(1丁目3番32号付近)	東町の通りから、正行寺に向かう道を行くと、左側にある。	東町から、下横田町にある真宗正行寺の山門にいたる参道であった。正行寺は、松本城天守を築造した石川数正・康長父子の菩提寺である。
庄内町 しょうないちょう	松本市庄内2丁目6番47号	庄内町公民館入口、「庄内町」信号近く	八百年も以前に栄えた捧の庄という庄園のうちというのがこの地名の起りと考えられる。庄園時代の名残りを伝えた地名である。この地名は、江戸時代には薄川の下流地域に広がった庄内村に、また庄内村を含む十五ヶ村から成る庄内組へと引き継がれてきた。
常法寺小路 じょうほうじこうじ	松本市北深志2丁目888 先(2丁目5番9号付近)	「下下町」の一本南の通り、セブンイレブン和泉店から西に行くと、右手に見えてくる。	山伏の寺、常法寺がこの通りの東側下々町の角にあったことに由来する。明治になってからは小路入口の町屋の屋号をとって「あぶらた小路」とも呼ばれる風情ある小路。
白板 しらいた	松本市白板1丁目3番7号	折井クリニックの南側、子育て地蔵堂の前	白板の地名は戦国期にさかのぼり、開田を意味するといわれる。また松本城天守築城の際、この地を用材を製材した白木板の置場としたのが、その由来とする説もある。天保三年に開通した犀川通船は、この地を船着場として、明治三十五年の篠ノ井線開通後まで続いた。
城西町 しるにしちょう	松本市城西1丁目6番23号	大手一丁目信号から新橋に向かう一方通行路を進み、左側を見ていくと、祠の脇に立っている。	この地域は、近世には大部分が蟻ヶ崎村に属していたが、明治以降、旧城下町の周辺に新しい町がつけられた。城西町もその一つで、松本城の西側にあるので、この名がつけられた。
新伊勢町 しんいせまち	松本市深志1丁目786	藤屋(菓子屋)の前の植込み	明治三十五年に篠ノ井線が松本まで開通し、松本駅から伊勢町や本町方面につながる通りとして新伊勢町がつけられた。町名は松本駅から伊勢町に通じる新しい町という意味である。
新小路 しんこうじ	松本市中央2丁目10番13号付近	中西屋本店(酒屋)の東側の道	中の橋と中町を結ぶ小路で、小池町とは城下町の特徴であるくいちがいとなっている。貞享年間の頃、中町孫四郎の願によって屋敷の内に小路を開け肴店をはじめたという。
新田町 しんたまち	松本市開智2丁目3番39号	城北公民館の前	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。新田町もそのひとつである。明治二年に江戸定府藩士(江戸屋敷詰の武士)の帰国にともない、その屋敷として、新たに他町の西にできたので、新田町と命名された。
神明町 しんめいちょう	松本市中央1丁目6番	神明社の前。「国府町」の碑の北側30mほど	伊勢町通りの中ほどに神明小路があり、その奥に神明宮が祀られていた。明治三十五年に松本駅が開設され、そこから東へ、市内中心部を結ぶ通りとして神明町がつけられた。町名は神明宮に因む。

新町 しんまち	松本市北深志1丁目3番11号 中澤医院前	中澤医院の前のカドにある。	寛永十年に越前大野より松本城に入った松平直政は、三ノ丸北門・北馬出しから北にかけて城外侍屋敷を造った。最も新しい町であったので新町と名付けられた。町の北の端には湧水池の深志大池があり、飲用水に用いられ、その流末は総堀に注いでいた。
新家町 しんやまち	松本市庄内1丁目1番21号	新家町公民館の前	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たな町々が形成されたが、新家町もその一つである。この地域は、江戸時代は小島村の中にあった。大正十四年の旧松本村合併時に新家町として誕生した。
末広町 すえひろちょう	松本市本庄2丁目747-1	第二地区公民館の前	この地域は、明治時代になって川の名前に因んで長沢町とあったが、大正三年四月に区長制がしかれると、長沢町は七区に分けられた。町名の由来は、町の形が西方が狭く東方に行くに従い扇形に広がっているため、末広の扇に因んで、町の発展の願いを込めて末広町と命名された。
征矢野 そやの	松本市征矢野2丁目5338-1	征矢野公民館前	征矢野の地名は、古代に信濃國から朝廷に梓弓が献上されたが、その弓に用いられた征討の矢(征矢)がこの地で作られたという伝承による。中世には信濃守護小笠原氏の居館が井川にあり、この辺りにも町割りがあったといわれる。近世には庄内組征矢野村とよばれた。
大名町 だいみょうちょう	松本市大手2丁目3番10号	大名町通りの市営大手門駐車場カド	水野氏時代までは大手南門通りと呼んでいた。女鳥羽川から北側の三の丸は、上級の武士が居住する地域であり、なかでもこの通りの両側は年寄や組頭など高禄の藩士の居住する所だったので、この名がつけられた。
鷹匠町 たかじょうまち	松本市開智1丁目2番23号 【一時撤去中】	松本神社交差点北西側 【一時撤去中】	城外武家屋敷の一町名。総堀の外、松本城の西北に位置し、慶安年間(一六四八～五二)に町割りが行われた。「信府統記」には「鷹匠町東西百三間余、北ヶ輪八軒但シ南ノ端鍛冶細工所アリ」と、町の様子が述べられている。後の戸田氏時代に鷹匠餌差が置かれてこの町名がついたという。
高宮 たかみや	松本市高宮中93番4号	高宮郵便局向い	この地域は、寛永年間(一六三三ころ)に鎌田村から分村し、明治のはじめまで高宮新田村といった。地名の由来は、この地が出川町に祀られている多賀神社(多賀宮)の入口にあたることから、その社名によるといわれている。
竹平町 たけひらちょう	松本市本庄2丁目6番7号	相澤病院前から北へ入る。「梅ヶ枝町」の碑がある通りの一本西の通り。	大正十一年に長沢町が七区に分かれ、七町が成立した際に、自ら所有する土地を提供して町づくりに貢献した竹内愛人氏に因み、竹内家の中興の祖である氏の祖父の平米氏の姓名の各一字をとって、竹平町とした。また同じころ成立した常盤町・若松町の松、梅ヶ枝町の梅に竹が揃うと、松竹梅の縁起に因むめでたい町名になることも加味されている。
田町 たまち	松本市北深志1丁目2番3号前 田町の南突当り	松本市役所東庁舎前の道を北に行き、突き当りを左に曲がると、左手のカーブミラーのところにある。	城外武家屋敷の一町名。この辺りはかつて大門沢の左岸の低湿地で水田のあったところに、慶安年間(一六四八～五二)水野氏により武家屋敷が設けられたので、この町名がついたといわれる。幕末の家数は東側十六軒西側二十一軒で、一〇〇石前後の武士の住む町であった。

長称寺小路 ちょうしょうじこうじ	松本市女鳥羽1 丁目9番8号 先	長称寺入口に ある。(近くに上 横田町の碑が ある。)	和泉町から分岐する二つの小路の一つ。和泉町より長称寺 が見通せるのでこの名がつけられた。長称寺は親鸞上人ゆ かりの寺で、山号を木曾義仲院といい、城下町の東に配置 され、城砦的な性格を併せ持った寺であった。
筑摩 つかま	松本市筑摩2丁 目2968-2	筑摩神社遊園 地(筑摩神社の 西側)の前	古くは束間・豆加万などと書かれていたが、和銅六年(七一 三)好字令という朝廷の命令により筑摩となった。明治四年 筑摩県が置かれてから「ちくま」となり、古代からの呼称「つか ま」を伝えているのはこの地のみである。筑摩東は昭和三十 年頃神社東の地域に生まれた。
出居番町 でいばんちょう	松本市城東1丁 目1番12号 出 居番児童遊園 の東側	外堀の「かき 船」の向かいに ある細い路地 を東に行くと、 右手の公園の 前に石碑が見 えてくる。	出居番とは口々番所や筏番所へ交代で詰番にでる役職の ことで、水野氏の時代におかれた。この町は、それらの任務 にあたる武士が居住していたところである。
天神小路 てんじんこうじ	松本市深志2丁 目4番1号	進学会ビルの カド	町人町・本町五丁目から東へ入る一町名。本町から天神の 社が見通せるので、天神小路と呼ばれた。なお、ここには小 笠原秀政時代に京都右近に模した天神馬場が設けられて いた。
天白町 てんぱくちょう	松本市旭2丁目 7番 天白神社 東側	天白神社の東 側、道路をはさ んだ敷地の中 に立っている。	この町にある天白社には、天正年間に松本城に入った石川 数正が、城の鬼門よけとして出身地岡崎より勧請したという 伝承がある。 水野氏の時代になって、ここに城外侍屋敷が造られると、こ の天白社にちなんで町名がつけられたという。
土井尻町 どいじり(まち)	松本市大手2丁 目8番21号 安 立寺	安立寺の入り 口に立ってい る。	松本城三の丸の西南部に在り、城郭の外を巡る土居の尻で あったことから名付けられた。西南に低く、堀の水は北から 西南に潤し、中級武士の屋敷が並んでいた。
同心小路 どうしんこうじ	松本市中央2丁 目3番17号の南 側(2箇所)	知新堂ビルの 南側の小路に ある。小路の東 側入口と、西側 入口に1箇所ず つ立っている。	この小路は元禄九年(一六九六)に藩主水野忠直が設けた 町同心の屋敷があったので、同心小路とよばれた。 およそ十人の町同心が住み、本町・東町・安原町にあった同 心番所に詰め昼夜をわかつたず、城下の治安維持と商取引 の不正を取り締まった。 この碑は、本町一丁目町会によって建てられました。
同心町 どうしんちょう	松本市北深志3 丁目7番12号 付近	四つ角のゴミ ステーションの横	城外武家屋敷の一町名。 町名はここに同心番所が置かれていたことに由来するとい う。 町は善光寺街道に沿った萩町と堂町、西町を結ぶ三筋の小 路から成り立っていた。
堂町 どうまち	松本市北深志2 丁目3番(2丁目 538番地先) 堂町ゴミステ ーション5番の隣	萩町バス停か ら、一本西の通 りに入り、北か ら南に歩いて いくと、左手に 見えてくる。	城外武家屋敷の一町名。戸田氏の菩提寺のひとつ、妙光寺 の御堂がこの地にあったので、この町名がついたといわれ る。明治維新の際、古いしきたりを改めようと、「御」のつい た町名から「御」をとり、堂町となったという。

常盤町 ときわちょう	松本市深志3丁目1046-7	駅前通りの「深志三丁目」信号から南へ行くと、左手に見える。(精美堂印刷の前)	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町とよばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その際この地は、松本の松に因んで常に変わらぬ常盤の松をイメージして永久不変を願って常盤町と命名された。
土手小路 どてこうじ	松本市大手2丁目3番10号	市営大手門駐車場南棟の東側、中華料理百老亭の前	この小路は総堀の土手に沿っていたので、土手小路といわれた。大名町の南端にあった大手門際より東へ六十間余、西へ六十九間余あり、東は辰巳御殿、西は土井尻へ通じていた。大手南門から西の小路には、北側には武家屋敷三軒があり、一〇〇石前後の武士が住んでいた。
巴町 ともえちょう	松本市城西1丁目103-5	北松本駅から東へ歩き、交差点「巴町」北東カド	この地域は、近世には蟻ヶ崎村、白板村に属していた。大正の始め、信濃鉄道(現大系線)の開通に合わせて市街地へのアクセス道路として開道された。町名の由来は、白板、今町、城西町と三巴になっていたことによる。
豊倉町 とよくらまち	松本市女鳥羽2丁目2497-4	女鳥羽公園内	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。岡宮神社の宮前の豊倉町もそのひとつで、町名の由来は、吉字を選んで命名したものと伝えられる。
豊田町 とよたまち	松本市庄内3丁目1464-72付近	田川沿い、豊川稲荷・秋葉神社敷地の隣に建っている。	善光寺街道沿いのこの辺り一帯は、松本村大字出川字豊田であった。大正十四年の旧松本村合併の際に、豊田町として誕生した。町名の由来は古名「樋田」から来ているという。「樋田」と呼ばれた場所は、樋を使用して堰から水を引く田を指した。明治以後、好字をあてて「豊田」とした。
長沢町 ながさわちょう	松本市深志3丁目1025-3	深志神社の南西沿いにある駐車場	深志神社の南、長沢川にそったあたりは晒屋と呼ばれていたが、明治四十年市町村制施行にともなって筑摩村の一部が松本市に合併したのを機に長沢区とした。その後博労町東裏に、大正七年に筑摩部が開校、同八年に長野県工業試験所が開業した際に、町割りが行われ、常盤町・錦町・梅ヶ枝町・栄町などができ、長沢町はその一地域の町名となった。
中条 なかじょう	松本市中条10番1号	中条橋の北側にある駐車場の前。ナカツタヤの近く。	この地域は、平安時代から鎌倉時代にかけて置かれていた捧庄の中心地域にあたり、捧中村(条)と呼ばれていた。戦後の宅地化が進むまでは、一帯は整然と区画された水田が広がり条里的遺構もしのばれ、歴史的にも由緒ある景観を止めていた。地名の由来も捧庄中村の地名を今日に伝える由緒あるものである。
中ノ丁 なかのちょう	松本市旭2丁目2番7号 フォーレス21(アパート)の前のカド	国道143号旭町小学校前の信号を西に曲がり、歩いていくと、「東ノ丁」の次に、左側に見える。	城外武家屋敷の一町名。萩町の東に萩町に並行して東へ天白町、中ノ丁、東ノ丁と三筋の通りがあった。中ノ丁はその真中に寛永十九年(一六四二)に命名されたという。「信府統記」には「中ノ丁南北百六拾六間余、家数西ヶ輪二拾軒東ヶ輪三拾一軒、此町東西小路二ヶ所アリ」とある。中の町とも書く。
中林 なかばやし	松本市筑摩2丁目3408-5	中林神社の前	中林は江戸期から明治八年筑摩村の一部となるまで村として続いた。古く山辺の林部落と筑摩の中間にあったのでこの名がついたが、薄川の氾らんをさけてこの地へ移転したものと伝えられる。

<p>中原町 なかはらまち</p>	<p>松本市桐2丁目 2番25号</p>	<p>ほっともっと松 本桐店駐車場</p>	<p>明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。中原町もそのひとつである。その名の由来は、旧集落名による。原名は歌枕名所の「浅葉野」に関係するといわれている。</p>
<p>中町 なかまち</p>	<p>松本市中央3丁 目4番21号 は かり資料館前</p>	<p>はかり資料館 の前</p>	<p>城下町親町の一つで、「中町八外町之為中故中町ト号ス」(故実伝連記)とあり、善光寺街道の道筋であった。犀川通航開通(天保三年・一八三二年)の頃は、船も遡行していたので、塩・肴問屋が軒を連ねていた。</p>
<p>渚 なぎさ</p>	<p>松本市渚3丁目 543-1</p>	<p>田川公民館の 前</p>	<p>渚の地名は、奈良井川、田川、穴田川、大門沢川などが流れ、絶えず水がたどよう場所であったことに由来するという。近世は庄内組渚村で、村を東西に横切る飛騨街道は、松本城下の伊勢町口から野麦峠を越えて高山に至り、飛騨の木材や飛騨鯿などが運ばれてきた。</p>
<p>渚内城 なぎさうちしろ</p>	<p>松本市渚2丁目 4番3号</p>	<p>常德寺の前</p>	<p>この地域は、近世は庄内組渚村であった。村の中央には渚城の跡があり、それが地名の由来と考えられる。この城は、中世、応永七年(一四〇〇)に信濃の守護小笠原長秀が大塔合戦に敗北後、館を築き隠棲したと伝えられている。天文十一年(一五四二)当地に小笠原長時により常德寺が開創された。</p>
<p>鍋屋小路 なべやこうじ</p>	<p>松本市中央2丁 目7番21号 大 塚書店前</p>	<p>駅前通り 飯田 町信号のカド の大塚書店前</p>	<p>町人町・飯田町の南端の角から西へ入る小路名。「古実伝連記」には、「鍋屋有之故鍋屋小路」というと、この小路の由来が述べられている。鍋屋とは鍋や釜を作る鋳物師職人の事で、四軒の鋳物師屋があったという。</p>
<p>並柳 なみやなぎ</p>	<p>松本市並柳3丁 目71番2号</p>	<p>並柳公民館前</p>	<p>中世鎌倉期から戦国期の並柳郷にさかのぼる地名。江戸期から明治期にかけては村名となり、現在の町名に至る。かつてこの地に湖がありその水辺に柳が繁茂していたことによりその名がついたと伝えられる。</p>
<p>縄手 なわて</p>	<p>松本市大手3丁 目77-1付近 市道1502号線</p>	<p>縄手通りの四 柱神社入口に ある。</p>	<p>縄道から転じ縄手となった。縄は「真っすぐ」の意味を持ち、通りの形から町名に。三の丸堀と女鳥羽川との間の道で、松並木の続く縄のような道であったと云う。</p>
<p>西河岸 にしかし</p>	<p>松本市本庄1丁 目907</p>	<p>ホテルブエナビ スタの北にある 松本駅前記念 公園の北側</p>	<p>明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西河岸もその一つである。この町名は、旧城下町の本町、博労町から西に、長沢川沿いに形づくられたためこの名がつけられたと推測される。昭和初期にはこの界限は南部市場とあって、食品、野菜などありとあらゆる物売る市が日を定めてたっていた。</p>
<p>錦町 にしきちょう</p>	<p>松本市深志3丁 目5番23号</p>	<p>「常盤町」の碑 のある通りの一 本東側の通り にある。「中沢 ビル」前。</p>	<p>松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町とよばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが錦町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。</p>

西五町 にしごちょう	松本市深志2丁目1220 先	井上の信号の北西カド、歩道の生垣の中	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西五町もその一つである。この町名は、旧城下町の町名である本町五丁目の西に当たっているためこの名がつけられた。
西博町 にしはくちょう	松本市本庄1丁目1090 【一時撤去中】	「本庄一丁目」交差点の南東カド 【一時撤去中】	明治以降の松本の発展の中で、旧城下町の内外に新たに町々が形成されたが、西博町もその一つである。この町名は、旧城下町の町名である博勞町の西側に当たっているためこの名がつけられた。
西堀町 にしほり(まち)	松本市大手2丁目8番11号付近 大手二丁目交差点南東カド	北松本駅から東に歩き、信号「大手二丁目」の交差点で南東カドを見るとある。	松本城西側の惣堀の外側南北に置かれた町で、城外屋敷の在った所。町の北端(現:税務署辺り)に西の馬出しが設けられ、不開門(あかずのもの)が在った。
西町 にしまち	松本市開智3丁目2番 西町児童遊園地(福島大将生誕地)	西町児童遊園地(福島大将生誕地)の北東カドに建っている。	城外武家屋敷の一町名。松本戸田家の祖・康長が元和三年(一六一七)から寛永十年(一六三三)までの間に、安原町の西に武家屋敷を設けたため、この町名がついたといわれる。「信府統記」には「西町南北百九拾七間余、家数西ヶ輪(西側)二拾七軒、東ヶ輪(東側)二拾五軒」とある。
萩町 はぎまち	松本市北深志3丁目3番 萩町バス停近く	萩町バス停の横にある。	この通りは善光寺道と呼ばれ、旅人や物資を運ぶ中馬の行き交う道であった。道の左右に萩を植えて垣根とし、侍屋敷を遮ったので、萩町の名がつけられた。水野忠直が慶安のころに板塀に改めたといわれるが、ゆかしい町の名は今に伝えられている。
博勞町 ぱくろまち	松本市本庄1丁目3番6号 相野田医院前(県道平田新橋線沿い)	緑橋を南に行くと、右手に相野田医院(精肉栄楽の隣)が見えてくるので、その前。	博勞町は松本城下の南出入りに位置し、枝町十町の一つで、本町に属していた。本町とは袖留橋(現緑橋)を境とし、南の端には十王堂が置かれていた。古くは貢馬を集めて置いた所で馬町とか馬喰町といわれたが、元禄六年(一六九三)、博勞町に改められた。
旗町 はたまち	松本市開智3丁目433-1(開智3丁目3番1号付近)	城北公民館の前の通りをずっと北に行き、突き当たったところにある。	城外武家屋敷の一町名。西町と御徒町の間中に位置し、町の形が旗指物の形に似ているので、この名が付けられたという。
花咲町 はなさきまち	松本市女鳥羽1丁目431-15(1丁目7番7号前)	葎町吉野産婦人科医院から少し北に行くと、道の右側に立っている。	昔は、裏町のつづきの街で、料理屋が軒を連ねていた。通りの両側には桜や柳の木が植えられていて、いつしか花咲町とよばれるようになったという。葎町になってからも地元の人達は花咲町の名前に愛着を抱いていた。
幅(巾)上 はばうえ	松本市巾上5番44号	国道143号「巾上」信号の西側、犀川通船の碑の付近	巾上の名は、慶安四年(一六五一)の検地帳に見られ、近世庄内村の西半分を占めていた。幅(巾)は川の土砂のたい積や浸食により作られた階段状の地形といわれ、巾上はかつて田川によってつくられ、その上に位置する集落であることから起こった名称といわれる。

東ノ丁 ひがしのちょう	松本市旭2丁目 2番10号 住宅 前	国道143号旭町 小学校前の信号 を西に曲がり、歩 いていくと、左側 に見える。	城外武家屋敷の一町名。天白町・中ノ丁の東に位置するためこの町名がついたといわれる。「信府統記」には、「南北百六拾五間余、家数西ヶ輪三拾一軒、東ヶ輪三拾軒」とある。享保十六年(一七三一)の絵図には間口六間・奥行七間程度の町割りが見え、今日でもその名残をとどめている。東ノ町とも書く。
東町 ひがしまち	松本市城東2丁 目1番17号 城 東公園	「上馬出し」バ ス停の横	善光寺街道に沿う東町は、松本城下の中心、親町三町の一つで、町名は城の東側に位置することに由来するという。「松本大略往来」には宿場町として栄えた様子が、「東町八諸国之旅人木銭宿、旅籠屋商人定飛脚之泊宿」と記されている。
一ツ橋小路 ひとつばしこうじ	松本市中央3- 448-2 先(中 央3丁目3番14 号付近)	松本市はかり 資料館の西の 通り	中町から一ツ橋に通じる小路で宮村町とはくいちがいとなっている。古よりこの小路は肴店でにぎわい、藩御用達の商人はここを通過して東門から城内へ入ったという。
日ノ出町 ひのでちょう	松本市中央4丁 目1360-2	イオンモールの 南側道路沿 い、葉祖神社 の東側	明治二十三年片倉組が、当時水田であった清水の地に松本最初の製糸工場を開設。その後日本の製糸業が日の出の勢いで世界へ進出していくのにもなって、同工場も明治三十三年には片倉製糸紡績株式会社へと規模を拡大し隆盛に向かった。町名の由来は、日の出の勢いで発展する片倉にあやかり、また松本市の東に位置し日の出を拝する町という意味を込めて日ノ出町と命名された。
袋町 ふくろまち	松本市城東2丁 目7番2号 袋 町公民館前	袋町公民館の 前	水野忠直の時代(慶安ころ)に造られた城外侍屋敷で、江戸時代の終わりには六十石取り前後の武士が住んでいた。この町は南が入口で、中ほどは鍵の手に曲がり、北端は行き止まりという袋小路になっていたため、形にちなんで袋町と呼ばれた。防備のために工夫された町割りである。
二ツ井戸小路 ふたついでこうじ	松本市城東1丁 目5番	「城東二丁目」 信号交差点南 西側カド、魚万 の向い	この小路は、二十四小路の一つで享保年間の絵図(享保十三年)によれば、親町東町から分岐し、捨堀の南の木戸との間である。小路の長さは二十三間、幅は一間四尺であった。ここには冷水の井戸が二つ設けてあったことから、小路の名前となった。また、木戸の内側には番所があり、番人が詰っていた。 この碑は東町二丁目町会によって建てられたものです。
分銅町 ふんどうちょう	松本市中央1丁 目22番22号	寿司屋「すし 典」の前の歩道	明治三十五年篠ノ井線が松本まで開通し、松本駅と糸魚川街道の今町に通じる道がつくられた。その開道に功績のあった犬飼久左衛門・同孝吉父子の屋号「分銅屋」に因んで分銅町と付けられた。
放光寺 ほうこうじ	松本市城山 1042-3	城山公園の入 り口と、放光寺 に向かう道との 分岐点にある。	この地域は、近世は蟻ヶ崎村の中にあつた。町名の由来は真言宗の古寺放光寺があつたからで、蟻ヶ崎村が放光寺村と呼ばれたこともあつた。放光寺は明治の廃仏後曹洞宗として復興し、松本地方でも最古に属する県宝の「放光寺木造十一面観音立像」(秘仏)を有する。
本町 ほんまち	松本市中央2丁 目7番5号 松 本郵便局	松本郵便局の 南側駐車場入 口の横にある。	善光寺街道に沿う本町は松本城下の中心「親町三町」の一つで、大手橋(現千歳橋)から袖留橋(現緑橋)までの一丁目から五丁目までをいう。発祥は松本城築城の頃とされ、各種の問屋が軒を連ねる松本城下の荷物の集散地であり、経済の中心であった。

本立寺小路 ほんりゅうじこうじ	松本市中央3丁目11番3号	松本信用金庫 中町支店の敷 地内緑地	旧中町上ノ丁から本立寺の山門にいたる参道であった。慶長末年、小笠原秀政の母の菩提寺と定めたが、明治五年の廃仏毀釈で廃寺となった。伊織霊水は本立寺境内にあたる。
南新道町 みなみしんどうまち	松本市大手2丁目4番2号	飯田屋製菓あ め店の北側	明治以後の市勢の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。南新道町もそのひとつである。その名の由来は、西堀と今町を南側でむすぶ新しい道の意と考えられる。
南新町 みなみしんまち	松本市庄内1丁目3687-イ	第二地区公民館から南へ行き、藤沢鉄工所のカドを右に曲がって進むと、右手の逢新神社の前にある。	松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は家並みも続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれ、この際に南新町と命名された。町名の由来は女鳥羽川以北の北深志の新町(江戸時代の武家屋敷町)に対して川南の親町にあたることによる。
都河岸 みやこかし	松本市大手1丁目2番	セブンイレブン 今町店から女鳥羽川沿いに西に行くと、左手に見えてくる。「今町」の碑の近く	都河岸の由来は定かではないが、国府巨理神社(今町)の神社名から想像して、この地を筑摩郡にあった信濃国府と、延喜の東山道「巨理の厩」と推定し、さらに遠く都と結ぶ渡し場(巨理)と位置付けて都河岸と呼んだのではなかろうか。
宮崎町 みやざきまち	松本市城西1丁目2368-6	白板地区福祉ひろば前の駐車場	この地域は、近世に大部分が蟻ヶ崎村に属していたが、明治以降、旧城下町の周辺に新しい町がつくられた。宮崎町もその一つで、隣接する宮淵と蟻ヶ崎の両方から一字をあててこの名がつけられた。
宮淵 みやぶち	松本市宮淵本村8番1号	宮淵本村公民館、公園前(宮淵浄化センター近く)	宮淵の地名は、集落の北、城山丘陵の先端に勢伊多賀神社が祀られ、その南は大門沢、田川、女鳥羽川などが合流する低湿地帯であり、山際は淵をなしていたことに由来する。この地域は、二つ塚古墳などもあり、古くから人が住んでいたことがうかがえる。
宮村町 みやむらまち	松本市中央3丁目7番3号 マンション小林前	マンション小林前の花壇にある。	町人町・中町の枝町の一町名。南端には宮村大明神があり、信濃守護小笠原貞宗が井川に居館を構えた頃の暦応年間(一三三八～四二)に守護神として宮村の地に祀ったという伝承がある。地名の起こりもこの頃といわれる。江戸時代の初めに町割りが行われ、その後、奉公人や職人などが多く集住した。
向島 むこうじま	松本市本庄1丁目897 共有地	松本大学予備校東側道路、秋葉神社の前	この町は大正の初期、松本城天守閣より南向うを眺めた時、薄川の手前を東西に流れる長沢川南添いに、四方を川に囲まれた地形が島のように見えたことから、向島と命名された。当時の長沢川は現在の川幅よりも約三倍ほど広く、水は一面に漂い、川面にはアヒルなどが泳いでいた。
女鳥羽町 めとばちょう	松本市女鳥羽1丁目442-27	「女鳥羽」信号交差点を北に進むと、左側に見えてくる。	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。女鳥羽町もそのひとつである。大正二年(一九二三)、太田有親が中心になって道路を開いた。この頃から女鳥羽町といわれている。町の東側に女鳥羽川が流れているため命名されたのではないかといわれている。

元原町 もとはらまち	松本市桐1丁目 4番58号	元原公民館前	明治以後の市制の発展にともない、城下町の外側にも新しい町々が形成された。元原町もそのひとつである。その名の由来は、古くから元原と呼んでいたのによる。原名は歌枕名所の「浅葉野」に関係するといわれている。
元町 もとまち	松本市元町1丁目 8番28号	松本砂防事務所東口	古代、信濃国府が筑摩郡にあった時代の集落の中心部がこの付近であったという言い伝えから、元町の町名がつけられたといわれる。しかし、国府の位置はまだわかっていない。
安原町 やすはらまち	松本市北深志2丁目 4番1号 徳若菓子店前	宮坂徳若菓子店の前の四つ角、北東カドにある。	この辺りは古くは安佐端野(麻葉野)原と呼ばれていた。小笠原貞慶が天正十年に深志城を回復し、深志の地を松本と改め、同十三年に城下町の町割りを行った。善光寺道に沿って造られたこの町人町は「安佐端野原」の前後二字をとって安原町と名付けられた。
柳町 やなぎまち	松本市丸の内7番 松本市役所東庁舎前	松本市役所東庁舎玄関前	往古、この辺りを泥町といった。天正十年、旧地を回復した小笠原貞慶が、天正十三年から十五年にかけて、宿城の町割りを行い、この地に侍屋敷を建てた。柳の木が多くあったので、柳町と名づけた。大柳町と呼ばれるようになったのは、明治以後のことである。
弥生町 やよいちよう	松本市中央3丁目 1169-1	松本市美術館前の歩道	大正九年八月、松本高等学校本館が竣工し、これにともなって本町角から鍋屋小路をへて松高正門までの道路が拡幅され、宮村から県町までが弥生町と名づけられ、大正十一年十一月の松本市議会で承認された。町名の由来は、道路の開通が陽春弥生の候であったのに因むという。
横町 よこまち	松本市中央3丁目 4番	中町通りと大橋通りの交差点、北西カドの広場にある。	江戸時代、善光寺道は本町から中町に入り、下丁・中丁・上丁を通り、女鳥羽川に架かる大橋を渡って東町へ抜けた。上丁を北に折れ、大橋までに至る短い道筋周辺では、この道筋を中町と呼ばず、横町と呼び慣わしていたことがあり、「信州松本図写」(文化十三年・一八一六年)には「横町」と記されている。昭和初年に現在の大橋通りが開通し、かつての景観は無くなってしまった。 この碑は、中町一丁目商店街によって建てられました。
葎町 よしちよう	女鳥羽1丁目 429-19(1丁目8番21号 マトバ薬局前)	マトバ薬局前歩道	東町から桜町までの新道は大正末頃に開かれた。まず大正十一年に単信坊への道路が整備されて葎町ができ、同十三年には左衛門小路が拡幅され女鳥羽川までの新道が完成した。葎町の町名は、この辺りが葎が生い茂っていたことに因むという。
四ツ谷 よつや	松本市県1丁目 3番13号	四ツ谷公民館の北側の柵の中	この地域は明治時代には桑畑が多く、そこに四軒の家があったところから四ツ家村と呼ばれた。明治四十二年農林省蚕業試験場松本出張所の開設とともに道路が開通し、町並みが形成された。大正五年一月に四ツ家と改められ、昭和八年には四ツ谷町、金山町、四ツ谷東区に分離した。
両島 りょうしま	松本市両島79番イ	西部体育館前	両島の地名は、この地が上島、下島の二地域からなっていたことによる。両島には足半送りという厄除け行事が伝えられている。江戸初期にアカハラ病(赤痢)が蔓延したので、村人は大きな足半を作って、村の入り口四カ所の高い木につるし、大男がいるように見せかけて疫病神を追い払ったという。

<p>六九町 ろっく(まち)</p>	<p>松本市大手2丁目2番 長野銀行大名町支店(2丁目2番16号)の東側歩道</p>	<p>千歳橋を北に渡ったところ、長野銀行の前にある。</p>	<p>城外武家屋敷の一町名。総堀の外側、大手門前から女鳥羽川北側に東西にのびる町であった。「信府統記」には「南門ノ外川端ニ厩ヲ造ル、是ヲ外馬屋ト云、又六九馬屋トモ云、五十四疋立ナルガ故ナリ」と、この町名の由来が述べられている。</p>
<p>若松町 わかまつちょう</p>	<p>松本市埋橋2丁目1584-11</p>	<p>「埋橋一丁目」信号交差点、北東側カド植え込み内</p>	<p>大正九年八月、松本高等学校本館が竣工し、それにともなって周辺道路が整備され、旧松本商業学校跡から中林橋までを若松町と名付けた。町名の由来は、松は竹・梅あるいは鶴とともにめでたい取り合わせとされ、また松本の松にも通じるので、松の若葉のようにみずみずしく発展することを願って命名された。</p>

【問合せ先】

松本市教育委員会 文化財課

松本市大手3-8-13 松本市役所大手事務所3階

TEL 0263-34-3292 FAX 0263-34-3290

平成29年10月1日改訂